

2.10

メンタル・スペース理論

坂原 茂

自然言語の情報伝達では、言語表現は不十分な情報しか伝えないことが多く、聞き手は多くの情報を補うことで意図された解釈にたどり着く。言語表現は完成された解釈を表現するにはほど遠く、単に解釈のきっかけを与えるだけである。解釈は、先行文脈、既存の知識、発話状況で得られる情報をうまく使って、その場で作り出される。解釈プロセスは、言語表現が伝える意味の受容ではなく、そこからの意味の構築である。メンタル・スペース理論 (mental spaces theory) は、言語表現が与える貧弱な意味が語用論的操作によって充実した理解へと変貌する過程をできるだけ単純で、明示的なやり方で説明しようとする意味論である。この理論の特徴は説明の一般性、談話研究の重視であるが、顕著な技術的特徴としては、メンタル・スペースと呼ばれる局所的認知領域への情報の分配と、マッピングと呼ばれる領域間の相互作用の使用がある。言語表現の意味はメンタル・スペースに書き込まれ、先行談話、既存の知識 (フレームや理想認知モデルなど)、発話状況で得られる視覚・聴覚情報など、様々な情報との相互作用により、メンタル・スペースに外部からの情報が流れ込み、完成された意味が作られていく。

1. メンタル・スペース理論の登場

言語学は、元来、言語を通して人間の心を研究するという目標を持っていた。しかし、経験科学として確立するために、意図的に研究対象を狭く設定し、この目標を封印してきた。20世紀前半の言語学は音韻論主導であり、1950年代の生成文法登場以後は統語論主導であった。極端な言い方では、音韻論は20から50程度の音素の組合せ理論であり、統語論も動詞、名詞、形容詞など少数の統語カテゴリとそれらカテゴリに属す語彙の組合せ理論にすぎない。こうした組合せは、完璧を目指さなければ、少数の規則で記述できたため、言

語は閉じられた自律的なシステムと仮定され、言語学はこのシステムの内的構造を研究すればよかった。

1960年代半ば意味研究が本格化すると、意外にも、統語論で成功を取めた内的構造の分析という研究方法が意味研究には役に立たないことが明らかになる²¹。意味の領域は、閉じられたシステムではなかったのである。1965年からの15年間は、様々な研究方法が試みられ、一見、混沌とした状況が続く。しかし、これは、言語観の革新という知の組み替えに、是非とも必要な試行錯誤の期間であった。言語学は哲学、認知心理学、人工知能、コンピュータ科学などから多くのことを学びつつ、新しい言語観とそれに相応しい研究方法を探し続ける。こうして、当時、ようやく形をなしつつあった認知科学の成立に積極的に関わり、認知プロセスとしての言語という言語観とそれに相応しい研究方法を確立していく。

1980年頃から具体的成果が現れ始める。レイコフとジョンソン (Lakoff and Johnson 1980) はメタファーの詳細な分析により、メタファーが、既存の知識を使って、新しい経験領域を迅速かつ低コストで理解可能にする認知方略であることを明らかにする。これは、言語の研究が人間の思考について多くを教えてくれることを明らかにした記念碑的研究であった。同じ頃、フォコニエ (Fauconnier 1979, 1985) は、言語と認知を仲介するインタフェースとしてメンタル・スペースという概念を提唱し、ダイナミックな意味構築の理論の研究を開始した。

2. メンタル・スペース理論

メンタル・スペースとは、談話処理が作り出す部分的・局所的情報領域で、我々は話したり、聞いたり、考えたりする際にメンタル・スペースを作る。言語表現の意味はメンタル・スペースへの

▶各パートには、参考文献に加え文献解題を付した。

2.12 認知類型論

231

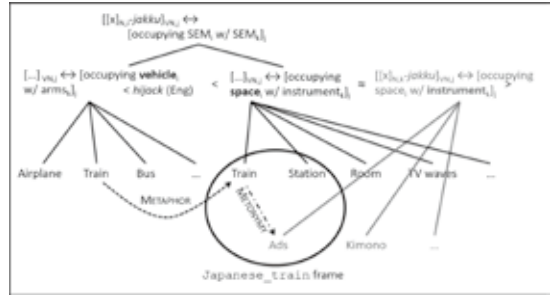


図2 二つの「名詞+ジャック」構文の相互関係 (Hamitsch and Horie 2017: 139)

る拡張現象が生じている。具体的には、埋め尽くす対象としての列車から、列車内のスペースを埋め尽くす手段 (例: ポスター、中吊り広告) (例文 22 ~ 23)へとメトニミーの拡張が生じている。

まとめと展望

本節は、認知類型論という学問分野がどのような特徴を持った学問分野であるかを概観した。具体的には、初期の言語類型論者、そしてサブアが有していた言語構造と思考の相互関係に関する洞察的な考察に源泉を持ちつつ、方法的に整備された現代の言語類型論と融合的に結びつけて興味深い文法・語彙現象の通言語的分析を可能にしていることを具体的なケーススタディを通じて見た。今後、認知類型論的な文法・語彙現象の研究が類型論的な特徴を異にするさらに多くの言語で行なわれることが期待される。

▶重要な文献

- 堀江薫, バルデシ, 2009『言語のタイポロジー—認知類型論のアプローチ—』研究社
認知類型論の唯一の体系的な概説書である。言語類型論から認知類型論への歴史的展開を概観し、複文、被従属化構文 (言いさし)、受動構文、文法化、語彙類型論など通言語データに基づき豊富なケーススタディを通じて認知類型論という学問分野の可能性を示す。
Croft, W. 2001 *Radical Construction Grammar*. Oxford Univ. Press, Oxford. [山梨正明・渋谷良方 (訳) 2018『ラディカル構文文法—類型論的視点から見た統語理論—』研究社]

論—研究社』

認知言語学と言語類型論の両分野に精通し、認知言語学と言語類型論分野の融合的研究を推進してきた著者による、類型論的なデータに基づいた構文文法理論の概説書。「認知類型論」的な研究の進むべき一つの方向を示唆している。

- Deutscher, G. 2011 *Through the Language Glass. Why the World Looks Different in Other Languages*. Metropolitan Books, New York. [椋田直子 (訳) 2012『言語が違えば、世界も違って見えるわけ』インテリジェント]
言語と文化、思考・知覚の関係に関する古代から現代までの言語学的な考察。学説を自在に縦覧する認知類型論分野への入門書といえる良書。
Sapir, E. (1921) *Language*. Harcourt Brace Jovanovich, New York. [安藤貞雄 (訳) 1998『言語—ことばの研究序説』岩波書店]
認知類型論の始祖とも言うべきサブアの言語、文化、思考・知覚に関する洞察に満ちた古典的名著。

▶文献

- Booij, G. 2010 *Construction Morphology*. Oxford Univ. Press, Oxford.
Comrie, B. 1989 *Linguistic Typology and Language Universals*. (1981), Univ. of Chicago Press, Chicago. [松本克己・山本秀樹 (訳) 1992『言語普遍性と言語類型論』ひつじ書房]
Croft, W. 1991 *Syntactic Categories and Grammatical Relations*. In *The Cognitive Organization of Information*. Univ. of Chicago Press, Chicago.
Croft, W. 2001 *Radical Construction Grammar*. Oxford Univ. Press, Oxford. [山梨正明・渋谷良方 (訳) 2018『ラディカル構文文法—類型論的視点から見た統語理論—』研究社]

読者対象

- 言語学、認知科学および心理学、情報科学、神経科学等の隣接する諸分野の研究者・学生。
●言語学に関心の高い一般の方まで。 ●公共図書館・学校図書館。 [2019年10月刊]

きりとり線

【お申し込み書】この申し込み書にご記入のうえ、最寄りの書店にご注文下さい。

認知言語学大事典

B5判 864頁 定価(本体22,000円+税)
ISBN 978-4-254-51058-4 C3580

冊

●お名前 □公費/□私費
●ご住所(〒)TEL

取扱書店

朝倉書店

〒162-8707 東京都新宿区新小川町6-29/振替00160-9-8673
電話 03-3260-7631/FAX 03-3260-0180
http://www.asakura.co.jp eigyo@asakura.co.jp



総合科学「認知言語学」の広範な研究領域をこの1冊で鳥瞰。

認知言語学

COGNITIVE LINGUISTICS 大事典

[編集主幹]

辻 幸夫

[編集]

楠見 孝
野村益寛
吉村公宏

菅井三実
堀江 薫

- 言語学としての専門性を維持しつつ、認知科学、情報科学、神経科学等と手を携えて進化を続ける研究分野（全5章60余の論考）とその用語の基礎（全52項目のコラム）を解説。
- 充実した索引（日英、英日）で、関連用語・人名を検索しやすくした。

2019年10月刊行予定！

B5判 864頁 定価(本体22,000円+税)
ISBN 978-4-254-51058-4 C3580

 朝倉書店

本書について (辻 幸夫)

本事典が対象とする認知言語学の各領域と関連分野の包括性、執筆陣の多様性、何よりも卓越した執筆者による専門領域の簡明な俯瞰と、それに続く洞察に満ちた論考は、世界の名だたる類書を凌駕していると言っても過言ではない。

本事典を編集する上では多様な利用者を想定した。したがって、認知言語学の中核となる言語学領域の研究と学際領域を概観できるように構成を考えた。執筆陣は言語学のみならず他分野の研究者をも多く含み、指導的立場にあるベテランを中心に選んだが、主題によってはもっとも相応しいと考えられる新進気鋭の研究者にも加わっていただいた。

(本書「序文」より抜粋)

編集主幹

辻 幸夫 慶應義塾大学

編集

楠見 孝 京都大学
菅井 三実 兵庫教育大学
野村 益寛 北海道大学

堀江 薫 名古屋大学
吉村 公宏 龍谷大学

執筆者 (五十音順)

青木 克仁 安田女子大学

秋田 喜美 名古屋大学

浅井 優一 東京農工大学

朝妻恵里子 慶應義塾大学

足立 幾磨 京都大学

荒川 洋平 東京外国語大学

池上 嘉彦 東京大学名誉教授

伊藤 健人 関東学院大学

井上 逸兵 慶應義塾大学

井上 京子 慶應義塾大学

今井むつみ 慶應義塾大学

内海 彰 電気通信大学

大谷 直輝 東京外国語大学

大月 実 大東文化大学

大槻 美佳 北海道大学

大野 剛 Univ. of Alberta

大堀 壽夫 慶應義塾大学

大森 文子 大阪大学

岡 智之 東京学芸大学

岡ノ谷一夫 東京大学

岡本 雅史 立命館大学

尾谷 昌則 法政大学

小原 京子 慶應義塾大学

金丸 敏幸 京都大学

楠見 孝 京都大学

熊代 敏行 慶應義塾大学

熊代 文子 慶應義塾大学

黒田 航 杏林大学

黒滝真理子 日本大学

古賀 裕章 慶應義塾大学

小熊 猛 滋賀県立大学

児玉 一宏 京都教育大学

酒井 智宏 早稲田大学

坂原 茂 東京大学名誉教授

佐治 伸郎 鎌倉女子大学

篠原 和子 東京農工大学

篠原 俊吾 慶應義塾大学

菅井 三実 兵庫教育大学

鈴木 亮子 慶應義塾大学

鷺見 幸美 名古屋大学

瀬戸 賢一 佛教大学

高倉 祐樹 北海道医療大学

高嶋由布子 日本学術振興会

高橋 英光 北海道大学名誉教授

田中 茂範 ココネ言語教育研究所

谷口 一美 京都大学

田村 敏広 静岡大学

田村 幸誠 大阪大学

月本 洋 東京電気大学

坪井栄治郎 東京大学

中本 敬子 文教大学

仲本康一郎 山梨大学

鍋島弘治朗 関西大学

二枝美津子 京都教育大学名誉教授

野村 益寛 北海道大学

長谷部陽一郎 同志社大学

林 宅男 桃山学院大学

早瀬 尚子 大阪大学

東森 勲 龍谷大学名誉教授

樋口万里子 九州工業大学

平賀 正子 立教大学名誉教授

深田 智 京都工芸繊維大学

古牧 久典 日本大学

古本 英晴 国立千葉医療センター

堀江 薫 名古屋大学

堀田 優子 金沢大学

本多 啓 神戸市外国語大学

町田 章 広島大学

松本 曜 国立国語研究所

宮畑 一範 大阪府立大学

村尾 治彦 熊本県立大学

粉山 洋介 南山大学

森 雄一 成蹊大学

森山 新 お茶の水女子大学

八木健太郎 中央学院大学

八木橋宏勇 杏林大学

山梨 正明 関西外国語大学

吉村 公宏 龍谷大学

李 在鎬 早稲田大学

渡部 信一 東北大学

略目次

第1章 総論

- 1.1 認知言語学と記号論 [池上嘉彦]
- 1.2 認知言語学と認知科学 [山梨正明]
- 1.3 言語学史から見た認知言語学 [野村益寛]
- 1.4 欧米日における認知言語学:その先駆けと現代の旗手 [大月実]
- 1.5 認知意味論と哲学 [青木克仁]

第2章 理論的枠組み

- 2.1 認知音韻論 [熊代文子]
- 2.2 認知形態論 [鈴木亮子・大野剛]
- 2.3 語の認知意味論 [杉山洋介]
- 2.4 認知文法 [坪井栄治郎]
- 2.5 認知文法的手法 [熊代敏行]
- 2.6 認知意味論 [松本曜]
- 2.7 使用(用法)基盤モデル [谷口一美]
- 2.8 フレーム意味論 [小原京子]
- 2.9 認知語用論 [岡本雅史]
- 2.10 メンタル・スペース理論 [坂原茂]
- 2.11 構文文法 [早瀬尚子]
- 2.12 認知類型論 [堀江薫]
- 2.13 認知機能言語学 [大堀壽夫・古賀裕章]
- 2.14 認知詩学 [大森文子]

第3章 主要概念

- 3.1 身体性と経験基盤主義 [堀田優子]
- 3.2 カテゴリー化 [瀬戸賢一]
- 3.3 捉え方/解釈・視点 [小熊猛]
- 3.4 イメージ・スキーマ [篠原俊吾]
- 3.5 メタファー・メトニミー・シネクドキ [瀬戸賢一]
- 3.6 主観化・間主観化 [菅井三実]
- 3.7 参照点 [尾谷昌則]
- 3.8 文法化 [堀江薫]
- 3.9 プレンディング(概念統合) [鍋島弘治朗]

第4章 理論的問題

A 言語の進化と多様性

- 4A.1 言語の起源・進化と認知言語学:比較認知的科学的視点 [岡ノ谷一夫]
- 4A.2 言語ラベルの進化:比較認知的科学的視点 [足立幾磨]
- 4A.3 歴史言語学と認知言語学 [樋口万里子]
- 4A.4 捉え方の普遍性と多様性 [吉村公宏]

B 言語の習得と教育

- 4B.1 音象徴・オノマトペと認知言語学 [篠原和子・秋田喜美]
- 4B.2 身体性と記号接地 [今井むつみ]
- 4B.3 言語習得:認知科学と認知言語学の視点から [佐治伸郎]
- 4B.4 構文の習得 [児玉一宏]

- 4B.5 日本における応用認知言語学の過去・現在・未来 [森山新]
- 4B.6 英語教育と認知言語学 [田中茂範]
- 4B.7 日本語教育と認知言語学 [荒川洋平]
- 4B.8 自閉症児の認知能力と言語発達 [渡部信一]

C 創造性と表現

- 4C.1 日本における認知言語学的比喩研究 [瀬戸賢一]
- 4C.2 時制(テンス)と相(アスペクト)の認知言語学 [樋口万里子]
- 4C.3 格と認知言語学 [伊藤健人]
- 4C.4 ヴォイスと認知言語学 [二枝美津子]
- 4C.5 モダリティと認知言語学 [黒滝真理子]
- 4C.6 多義性と認知言語学 [鷲見幸美]
- 4C.7 談話分析と認知言語学 [林宅男]
- 4C.8 言語行為と認知言語学 [高橋英光]
- 4C.9 命名論と認知言語学 [森雄一]
- 4C.10 コーパスと認知言語学 [森在鎬]
- 4C.11 辞書における意味記述と認知言語学 [宮畑一範]

第5章 学際領域

- 5.1 認知言語学と関連領域の連携 [菅井三実]
- 5.2 認知心理学と認知言語学 [楠見孝]
- 5.3 生態心理学と認知言語学 [本多啓]
- 5.4 認知人類学と認知言語学 [井上京子]
- 5.5 神経科学と認知言語学:意味と脳 [大槻美佳]
- 5.6 脳機能計測と認知言語学 [月本洋]
- 5.7 社会言語学と認知言語学 [井上逸兵]
- 5.8 コミュニケーションと認知言語学 [平賀正子・浅井優一]
- 5.9 唯識論と認知言語学 [吉村公宏]
- 5.10 自然言語処理と認知言語学 [内海彰]
- 5.11 神経心理学から見た認知と言語の諸相 [古本英晴]
- 5.12 手話と認知言語学 [高嶋由布子]

事項索引(和英、英和)

人名索引(和英、英和)

●コラム目次

- 1. コンピュータ・プログラミング言語と認知言語学 [長谷部陽一郎]
- 2. ヤコブソンと認知言語学 [朝妻恵里子]
- 3. 場と言語 [岡智之]
- 4. トートロジーと言語理解 [酒井智宏]
- 5. 言語と論理:認知言語学的視点から [酒井智宏]

- 6. 意味的關係・対立 [大谷直輝]
- 7. 心内辞書 [黒田航]
- 8. ステージ・モデルとピリヤードボール・モデル [長谷部陽一郎]
- 9. 定型連鎖 [八木橋宏勇]
- 10. アナロジーと文法 [黒田航]
- 11. 概念化:日常経験と言葉とをつなぐ [深田智]
- 12. 多次元プレーンモデル [町田章]
- 13. 認知図式の発見的意義 [町田章]
- 14. コントロールサイクル [町田章]
- 15. 理想化認知モデル [田村幸誠]
- 16. 力動性 [仲本康一郎]
- 17. 用法基盤モデルの応用 [黒田航]
- 18. 関連性理論と認知語用論 [東森勲]
- 19. 意味論と語用論の狭間 [酒井智宏]
- 20. 語彙語用論と認知意味論 [古牧久典]
- 21. 統語論と記号的文法観 [村尾治彦]
- 22. 有生性 [大谷直輝]
- 23. 有標・無標 [大谷直輝]
- 24. 認知類型論から見た世界の言語 [八木健太郎]
- 25. 類像性 [田村幸誠]
- 26. 言語の数 [八木健太郎]
- 27. 類別詞 [仲本康一郎]
- 28. 脱範疇化/脱カテゴリー化 [田村幸誠]
- 29. ラチェット効果と二重継承モデル [金丸敏幸]
- 30. チョムスキーの逆立ちと共進化 [金丸敏幸]
- 31. 言語の起源・進化:認知言語学への研究の流れ [菅井三実]
- 32. 言葉あそびと認知言語学 [篠原和子]
- 33. こころ, からだ, ことば:協調的発達 [深田智]
- 34. 他者との2人称的交流 [深田智]
- 35. 他者の心を理解すること:共感~心の理論 [深田智]
- 36. 言語習得と用法基盤モデル [黒田航]
- 37. 他動性 [大谷直輝]
- 38. 責任性 [田村敏広]
- 39. 使役と受動 [田村敏広]
- 40. 受け身文分析の諸相 [町田章]
- 41. メンタル・コーパス [八木橋宏勇]
- 42. 認知言語学と実験手法 [中本敬子]
- 43. 比喩はどのように理解されるのか [中本敬子]
- 44. 自然カテゴリー・自然概念 [金丸敏幸]
- 45. サビア=ウォーフの仮説 [八木橋宏勇]
- 46. 空間認知 [仲本康一郎]
- 47. 基本色彩語 [金丸敏幸]
- 48. ミラーニューロンと言語・認知 [大槻美佳]
- 49. 脳とメタファーの関係 [高倉祐樹・大槻美佳]
- 50. 脳とコミュニケーション:プロソディに着目して [高倉祐樹・大槻美佳]
- 51. ことばにできる記憶, ことばにできない記憶 [大槻美佳]
- 52. 失語・失読・失書と日本語 [大槻美佳]